

令和元年度 秩父地域森林活用等創出支援事業 活動状況報告書

第3 のみつ製造のための獣害ネット設置事業(H27-28)

団体名:第3 のみつ研究会

事業の目的・内容

秩父農工科学高校と引き続き研究を行っており、秩父の森林からの豊かな蜜源を利用して、長瀨町を拠点に大滝方面まで移動しながら、様々な果汁と自然の蜜を融合させた新しいみつの試作品が出来ています。その恵みを多くの方々に届ける事ができています。長瀨町、大滝地区の蜂場には天敵の鹿、猪、熊が出没しているにもかかわらず電柵の獣害ネットがしっかり設置されていません。この事により、蜂場の環境が安全に保たれていません。電柵の設置により、より安定的に「第3 のみつ」が製造できるようにしたいと思います。地域特産品作り推進事業として「第3 のみつ」の新商品開発を行なっています。

今までの活動状況



長瀨地区も農作物のイノシシ、シカによる獣害は毎年発生しています。毎日のように周囲をイノシシがミミズ掘りをしているので油断はできません。シカによる食害も年々増し周りのニセアカシアの木が枯れていきます。令和元年10月の台風の後、長瀨にもクマが出ました。電柵のお陰で、すぐ横の山道に生ごみを引きずった痕跡がありましたが電柵の設置のお陰で侵入を防ぎ、蜂群には影響がありませんでした。蜂群全体をネットで囲っているのはオオスズメバチの襲来を防いでいます。ミツバチにもストレスにはなるが蜂群の全滅を防ぐには有効である。ネットの周りに電柵を巡らしている。電柵に草が接触するとバッテリーが消費するので草刈りは頻繁に行う必要がある。

これからの活動・行事

クマは山へ移動したようだが、イノシシは頻繁に出没している。太陽パネルによりバッテリーを充電している。3年目になるので充電する能力を把握しておく必要がある。電柵に枝や草が絡みバッテリーの無駄な消費がない様にする。